



E-Defense
就任の挨拶

E-Defense Today

(Published by E-Defense, NIED, May , 2011, Vol.7 No.1)

兵庫耐震工学研究センター長 梶原浩一

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震において罹災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲者の方々に對しまして心よりの哀悼の意を捧げます。

このたび、中島正愛前センター長の後任として、独立行政法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター長に就任いたしました。前任と同じく、地震防災に貢献するため業務に専心努力する所存です。当方の業務に関わる皆さまに、引き続きのご協力、ご高配をお願い申し上げます次第です。

E-ディフェンスは、阪神淡路大震災を教訓として建設されました。この地震では、多くの尊い人命が建物の倒壊により奪い去られたことにより、構造物の破壊の解明と耐震対策を主眼とした、実大構造物への地震入力による実験研究を兵庫耐震工学研究センターでは進めて参りました。

東日本大震災でも、10,000棟以上の建物が応急危険度判定で、危険とされております。人災では、津波により被災域が今まで経験したことのない広範囲に、しかも破壊的な状況となり、近年のわが国では例を見ない大惨事となりました。私は、仙台市若林区で地震を受けました。その地震動の凄まじさに恐怖し、後日に見た南三陸、荒浜、仙台新港の風景の激変に愕然としました。地震は、どのような形で襲ってくるか、まだまだわからないことを痛感しました。

これからわが国を襲うことが予想されている、東海、東南海、南海地震をはじめとする巨大地震への備えは、言うまでもなく喫緊の課題です。それらの下支えは、震災の調査分析および今までに積み重ねてきた対策の再評価であり、国等は、より信頼性の高い基準や指針の構築につなげていくと考えます。

防災科研の兵庫耐震工学研究センターとしては、それらへの貢献も見据え、地震防災の対策への様々な視点から、施設を活用した実験研究を続けて参ります。



新戦力紹介

2011年4月より契約研究員として着任した佐々木智大です。東京工業大学大学院で学位を取得した後、ポスドク研究員として1年間大学に残って研究を続け、このたびE-ディフェンスに着任致しました。大学の卒論の頃からポスドク研究員の1年間を合わせて6年間、E-ディフェンスで行われた橋梁耐震実験研究プロジェクトに関わり、これまでの研究では、合計4体の鉄筋コンクリート製橋脚の加震実験の結果をたくさん使わせていただきました。

これまでは、実験の時だけE-ディフェンスに来るただのお客さんでしたが、これからは、E-ディフェンスの一研究者として、プロジェクトを引っ張っていく立場となりました。立場が変わり、いろいろとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これまでの経験をフル活用し、耐震工学、地震防災関連の技術向上を目指してがんばりますので、これからもご指導のほど、よろしく御願ひ致します。



(文責：研究チーム 佐々木 智大)